

令和3年度学校評価実施計画

学校名	大分県立中津支援学校
-----	------------

前年度評価結果の概要	<p>○今年度作成した各教科等合わせた指導の「基本的な考え方」の改訂をもとに、次年度はPDCAサイクルを通じた改善を行い、授業力の向上につなげる。</p> <p>○「なりたい自分に必要な力」について、キャリア教育の観点との関連を確かめることができた。「本人・保護者の願い」について保護者と十分に協議し、目標設定を行うとともに、個別の指導計画、授業実践等の充実を図る。</p> <p>○ヒヤリハット報告の推進は、安全・安心な学校づくりの充実に大きく寄与。次年度は、児童生徒によるヒヤリハットに気づく教育実践を導入し、安全教育の充実を図る。</p> <p>○地域との交流について、感染対策を講じながら計画通りの実施ができた。次年度も引き続き、地域の教育資源を活用した学習活動を計画し、地域との交流の充実を図る。</p> <p>○さまざまな業務改善の実行により、学校全体の時間外勤務の減少につながった。ただし、分掌業務量の偏りにより、時間外勤務の個人差が出ている。分掌編制による平準化を狙う。</p>
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を行い、その可能性をのばし、自立と社会参加を目指す人間を育成する。	<p>○個の実態や特性を踏まえ、教育的ニーズに応じた質の高い教育活動の展開</p> <p>○生活保障・進路保障に向けた進路支援の充実</p> <p>○安全・安心な学校づくりのための教育環境の整備・改善・充実</p>	<p>○ カリキュラム・マネジメントの推進</p> <p>○ 安全・安心な学校づくりの推進</p> <p>○ 児童生徒に向き合うための業務改善の推進</p>

※ PL：プロジェクトリーダー、SL：サブリーダー

重点目標	達成（成果）指標	重点的取組	取組指標	PL SL
カリキュラム・マネジメントの推進	各教科の「個別の指導計画」を3本柱・3観点で作成（作成率100%）	○新様式による「個別の指導計画」を全児童生徒作成	<p>○5月：3本柱での目標設定・3観点での指導方法の研修</p> <p>○5月：教職員がR3年度前期分の個別の指導計画作成（1教科）</p> <p>○8月：主幹教諭がモデルとなる個別の指導計画を提示する。</p> <p>○8月：教職員が3本柱、3観点でのR3年度後期分の個別の指導計画作成（各教科）</p> <p>○9～11月：授業実践（外部講師を招聘しての研修）（2回）</p> <p>○1月：自立活動（流れ図）の研修</p> <p>○1～2月：3本柱、3観点でのR4年度個別の指導計画作成（各教科）</p> <p>○3月：「一人一事例集」の完成</p>	<p>PL 研究・研修部「学校研究」担当</p> <p>SL 教務部「個別の指導計画」担当、教務主任、研究主任、3主幹教諭</p>
	授業にICTを活用する能力を 昨年比10%増 ※R1、H30ともに 69%（県73%）	○児童生徒のタブレット端末の環境整備	<p>○4月：PLSLで「活用する能力」の定義付け</p> <p>○6月：職員会議で周知。設定と基礎的な操作の研修①</p> <p>○7月：環境面についての職員アンケートを実施</p> <p>○8月：PL、SLで改善案を設定。改善案及び活用に向けての校内研修② 中間報告書作成、県提出。</p> <p>○9月～12月：授業でタブレットを活用した授業実践。</p> <p>○12月：環境整備及び活用に関する職員アンケートを実施、評価。最終報告書作成、県提出。</p> <p>○1月：中間・最終報告書をまとめ「活用事例集」を作成。</p>	<p>PL 情報部主任</p> <p>SL ICT活用推進委員、情報部総括主幹教諭</p>
安全・安心な学校づくりの推進	新型コロナウイルス感染症の指針策定及び指針実施率100%	○「新しい生活様式」に基づいた新型コロナウイルス感染症の指針の策定及び実施	<p>○4月：PLが文科省のガイドラインを基にした指針の策定・周知。</p> <p>○適宜：PLSLが文科省のガイドラインを基にした指針の改訂</p> <p>○10月1月：PLSLが感染症対策の保健指導を全校集会等で実施。</p> <p>○日常：全教職員が指針の実施。児童生徒の実態に応じた感染症対策（マスクの着用、手洗い、換気）の指導。各学部主事は、児童生徒の実施状況を評価・改善。管理職は県の感染状況によるフェーズの変更及び家庭への周知。</p>	<p>PL 保健部「感染症対策」担当</p> <p>SL 保健部主任、養護教諭</p>
	教職員のヒヤリハット報告200件及び児童生徒のヒヤリハット報告20件	○教職員の危機管理の向上及び児童生徒の安全教育の導入	<p>○4月：PLSLが、ヒヤリハット目標設定数を周知。1学期70件以上、2学期90件以上、3学期40件以上。</p> <p>○5月9月2月：校長面談により、教職員がヒヤリハットの「目標設定」「評価」「改善」を実施。</p> <p>○毎月：PLSLが学部会で事例・改善策の共有。</p> <p>○毎月：高等部生徒を対象としたヒヤリハットに気づく安全教育の実施（月1回以上）。</p> <p>○毎月：生徒からのヒヤリハット報告（月2件以上）。</p>	<p>PL 高等部作業学習担当</p> <p>SL 小・中学部副学部主事、保健部「安全整備」担当</p>
児童生徒に向き合うための業務改善の推進	職員アンケートで「風通しのよい職場と感じる」回答率90%以上	○「風通しのよい職場づくりプログラム」の立案・実行	<p>○4月：PLSLが、プログラムを立案・周知</p> <p>○5月：教職員がプログラムに基づき個別の目標設定。面談実施。</p> <p>○7月：教職員が取組実行。目標管理シートに自己評価実施。</p> <p>○9月：PLSLが中間評価実施（アンケート・ストレスチェック集計）</p> <p>○10月：PLSLが評価による改善策を設定。教職員が実行。</p> <p>○1月：PLSLが期末評価実施（アンケート・ストレスチェック集計）</p>	<p>PL 衛生管理者</p> <p>SL 教頭</p>